

テキスト例

② 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。特に指示のないかぎり、かぎかつこや、「や」も一字に数えます。

水
大関松三郎

- 1 大きなやかんを
 - 2 空のまんなかまでもちあげて
 - 3 とつくん とつくん 水をのむ
 - 4 とつくん とつくん とつくん とつくん
- (中略)

- 12 のんだ水は すぐまた あせになって
- 13 からだじゆうから ぶちつとふきでてくる
- 14 もう いっぱい
- 15 もう ひと息
- 16 とつくん とつくん とつくん とつくん
- 17 どうして こんなに 水はうまいもんかなあ

視線の変化

- 18 こんな水が なんのたしになるもんかしらんが
- 19 水をのんだら やつと
- 20 ああ 空も たんぼも
- 21 すみから すみまで まつさおだ
- 22 おひさまは たんぼのまんなか
- 23 白い光を ぶちまけたように 光っている
- 24 遠いたんぼでは しろかきの馬が
- 25 ばしゃつ ばしゃつと 水の光をけちらかしている
- 26 うえたばかりの苗の頭が風に吹かれて
- 27 もう うれしがって のびはじめているようだ

1 詩人は水をのむ前は何をしていましたか。もっともよいものを次からえらび、記号で答えなさい。

- ア 田をたがやしていた。
- イ 畑をたがやしていた。
- ウ 休けいしていた。
- エ 田植えをしていた。

はつきり書いていくなじみの読み取り

2 10行めの□に入れるのにもっともよいことを詩の中からぬき出して答えなさい。

3 18行め「こんな水が なんのたしになるもんかしらんが」とありますが、このようにおもう理由として読めるひとつづきの二行を詩の中からさがし、はじめの行の番号を答えなさい。

文章の各部分を関連付けながら読む練習

4 19行めの□に入れるのにもっともよいことを次からえらび、記号で答えなさい。

- ア 頭がはつきりした
- イ こしがしゃんとした
- ウ あせがでなくなつた
- エ そらがはれた

はつきり書いていくなじみの読み取り